

プラネタリウム投影プログラム「月へいこう！～おためし月面生活～」の制作

石坂 千春*

概要

ナレーション付き投影プログラムとして「月へいこう！～おためし月面生活～」を制作したので報告する。このプログラムは、2001年に投影したプログラムをデジタル全天周化したものである(制作は株式会社リブラに委託)。投影期間は2014年4月8日～8月31日を予定している。

1. はじめに

近未来の設定で、月観光旅行に出かけ、月世界の探求をするプラネタリウム投影プログラムを制作した。2001年に制作したプログラムをデジタル全天周化したものである。制作は株式会社リブラに委託した。

概要:ピンポンポン！突然ですがみなさまには「月で暮らそう」体験ツアーに参加していただくことになりました。近い将来、本当に月への観光旅行ができるようになるかもしれません。その前に、月はどんなところなのか調べてみましょう。月には空気も液体の水もありません。地球とはまったくちがう環境で、安全に楽しく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？さあ、「おためし月面生活」に出発しましょう。



図1. 「月へいこう」告知ポスターデザイン

2. 内容

月は地球のただ一つの“天然”衛星であり、もっとも身近な天体である。また、人類がただ一つ、地球以外で降り立ったことのある天体であり、遠くない将来、再び有人での探査も実施されるであろう。

月は地球とは全く環境が異なるが、それゆえに、月と比べることで、地球環境の有難さに改めて気づくこともできる。

本プログラムは、月について紹介しつつ、観覧客に地球について考えてもらうことを目的として制作したものである。

2-1. 構成

本プログラムは次のような4シーンから構成されている。

(1) シーン1：月へ出発

本プログラムのシチュエーションと月世界の概要について説明する。

- ・月には空気がない
- ・重力が小さい
- ・月の1日は、地球の「1ヶ月」
- ・昼と夜の温度について

(2) シーン2：月探査の歴史

月への旅程の間に、月探査の歴史についておさらいをする。

- ・アポロ～月探査機かぐや
- ・未来の月面開発について
- ・おまけとして、月から見た日月食の様子

*大阪市立科学館／中之島科学研究所
<http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/~ishizaka/>

(3) シーン3：月面の様子

月の上空を飛ぶような動画とともに、月面観光のみどころを紹介する。

- ・月面での水や空気、食料の確保
- ・月面天文台（利点）
- ・地下に作られる月面居住空間
- ・月面での危険性（宇宙線、隕石落下等）

(4) シーン4：地球の「鏡」

月から地球を眺め、地球がかげがえのない存在であることを紹介。

- ・地球が位置を変えずに満ち欠けする全天周CG動画
- ・地球への帰還
- ・エンドクレジット

※シーン1～シーン4の全編で19分50秒である。

2-2. 声の出演

ベテラン声優の2人が出演している。

- ・ガイドロボット「ユミーマ」＝冬馬由美
- ・現地ガイド「フルカワ」＝古川登志夫

2-3. 制作における修正点

制作途中の試写において、下記のような指摘を受けたので、適宜修正を加えた。

・もっと実写映像を加えてほしい

→実写、動画を追加した。なお投影している月面パノラマはすべてアポロ計画において撮影された写真であるが、月面では地形の影が薄いため、のっぺりとした“絵”のような印象になっている。

・月面散歩のシーンに動きがほしい

→月面パノラマをモデル化し、前後の動きも付加した。

・漢字にルビをふってほしい

→ほぼ全ての漢字にルビを付設した。

3. まとめ

本プログラムは、これまで当館ではあまり投影したことのないタイプ(キャラクターが登場する)である。

本報告を執筆している時点では、まだ投影が始まったばかりであるが、お客様が楽しみながら観覧して下さっているように思う。

※予告動画をYoutubeで公開した。

<http://www.youtube.com/watch?v=DIcmCdcMiO0>